質問 安全・安心の医療保障として奥出雲病院に期待

病院事務長 医療・介護と連携した住民福祉の向上に努めている

川西　明徳　議員

質問 奥出雲病院の累積欠損金が増えた理由は、仁多町立仁多病院移転新築事業で発生した新病院建設による起債償還だ。病院は、医業収益から20年間で14億円償還している。

医師不足と、診療報酬の引き下げ、地方交付税の削減が病院の運営を困難にしている最も大きな理由だ。もう一つの理由はこうした多額な借金などを担わされていたことだ。病院財政健全化の努力を伺う。

病院事務長 令和2年度の経常収支は若干の黒字だが内部留保資金も少なく、中・長期的に安定経営は依然厳しい。

経営改善に向け、経営企画グループを組織し、病院経営に力点を置いた組織運営体制にした。

しかし、長年の医師不足、町内での医療完結率低下、町外受診増加等の奥出雲病院利用者減少が病院収益減少に影響している。

今後は、信頼性を向上させ受診や健診等が増えるようにし、町民のみなさまに病院経営を支えていただきたい。

質問 奥出雲病院では医療・介護を効率よく提供するため、病床機能分化や在宅診療センターを開設し、多職種連携を図り、地域包括ケアへの取り組みを進めるとのことだが、どういうことなのか。

病院事務長 今年4月に総合診療科常勤医師2名が着任した。高齢者医療や在宅医療強化が大きく前進した。

7月には在宅医療センターを設置した。これにより、在宅事業の内容を共有し、より質の高い在宅医療提供と介護事業の連携を強化し、複数の職種が在宅療養患者や利用者にこれまで以上のケアの質を高めることができた。

セルフネグレクトの対応について

質問 セルフネグレクト※状態にある町民にも対応できる関係部署・機関の連携体制の構築を求める。

町長 誰にもセルフネグレクト状態になる可能性がある。

住民の共通した認識を得るよう啓発を行う。

※セルフネグレクト：気力を失い、周囲に助けを求めない状態

生活保護の扶養照会の法改正について

質問 4月から制度の運用が変わり、本人の申し出で生活保護の扶養照会を実質的に止められるようになったが。

町長 時代や実態に沿った運用になるよう法改正があった。

要保護者に寄り添った対応をする。

質問 旧耐震の介護老人保健施設の改修計画は

町長 必要性を認識、早期に施設改修を実施する

内田　裕紀　議員

質問 旧耐震基準による施設は、財政的負担も考慮し、適正な耐震化の計画を進めていくとのことであるが、現時点で改修計画があるのか。

町長 公共施設のうち約2割が旧耐震基準の施設であり、耐震化が課題である。個別の計画は現時点ではないが、学校再編も考慮し、将来を見据えた施設整備を進めていく。

奥出雲町介護老人保健施設

質問 旧耐震基準の介護老人保健施設の改修計画は。

町長 老健施設の必要性を認識している。運営する仁多福祉会と協議を重ねており、施設改修をできるだけ早期に実施する。

小学校再編の進め方について

質問 小学校再編については約30億円の建設費や通学にかかる運営経費が見込まれる。補助事業の事前採択を受けるためにも、できるだけ速く再編規模を確保した基本計画の策定が必要である。そのスケジュールは。

町長 再編時期が決定次第、補助金申請を進めていくが、現段階では仁多地域の令和7年4月開校は困難な状況である。

提案 問題解決の手法に演繹（えんえきてき）的アプローチがある。具体的には想定される規模の校舎像と適切な通学方法を事前に算出し提案解決していく手法である。主体的に提案するので進め方も速いのではないか。

高齢者の安心サポート事業について

質問 平成21年に供用開始したICT利活用・高齢者等の安心安全サポート事業（テレビ電話活用）の評価とその対策は。

福祉事務所長 現在はコールセンターに2名の体制で実施している。

コロナ禍の中で利用者の大半がこのコールを心待ちにしているとのことである。老朽化も進み、利用しやすい機種の選定も含め、高齢者の見守り活動のあり方について検討する。

コールセンターの様子

行政情報の活用と公表について

質問 住民主体のまちづくりの実現に向けて町民と総合計画を共有し、取り組むとのことである。行政情報の提供とわかり易い表現での公表を。

町長 必要な情報の提供はしていく。すでに公表されているものもある。ただし、様々な行政情報の提供、活用にあたっては、目的等見極めていく必要がある。